

WEBマーケティング AIの未来「基本編」について



Webマーケティングとは？

Webマーケティングとは、Web上にあるサイトやサービスなどを使うマーケティング活動です。
Webマーケティングでは、ユーザーを呼び込むための広告配信やコンテンツ制作を実施します。
ユーザーが商品やサービスに対して興味を持ち、購入してもらうことが、Webマーケティングの目的です。

マーケティングAIとは何ですか？

MA（マーケティングオートメーション）とは、顧客開拓におけるマーケティング活動を可視化・自動化するツール。見込み顧客のデータを一元管理し、業務の効率性を高めています。

そんなMAの領域にAIの力が加わると、「見込み顧客のデータの分析」、「分析結果をもとにした集客施策提案」が可能になります。

マーケティングにAIを活用するメリットは？

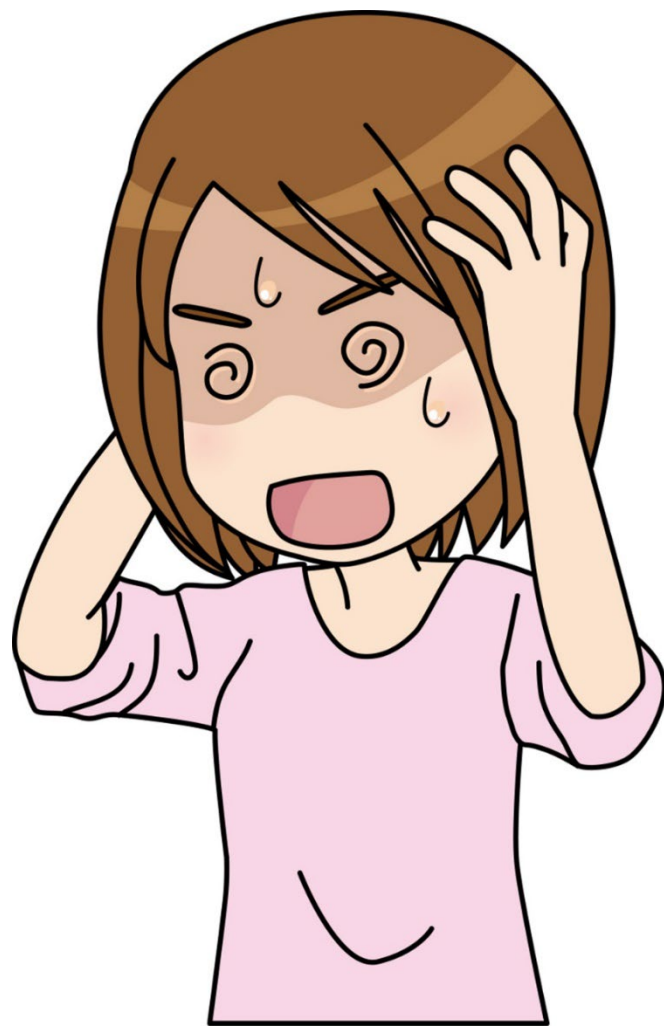
マーケティングにAIを活用する代表的なメリットが、同業務に欠かせない分析・予測といった業務を大幅に効率化できることです。

AIは大量の情報を識別する識別系という機能や、情報をもとに思考を行い予測・判断を行う予測系という機能が備わっており、人に代わって処理や作業を行うことが可能です。



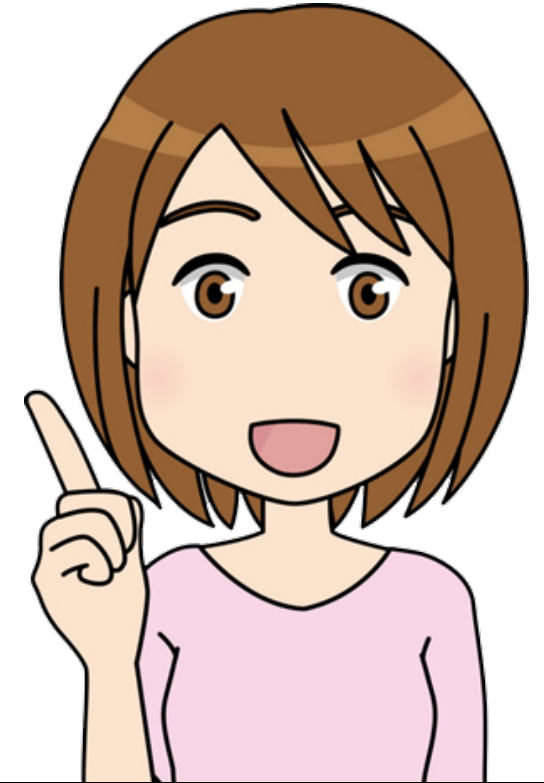
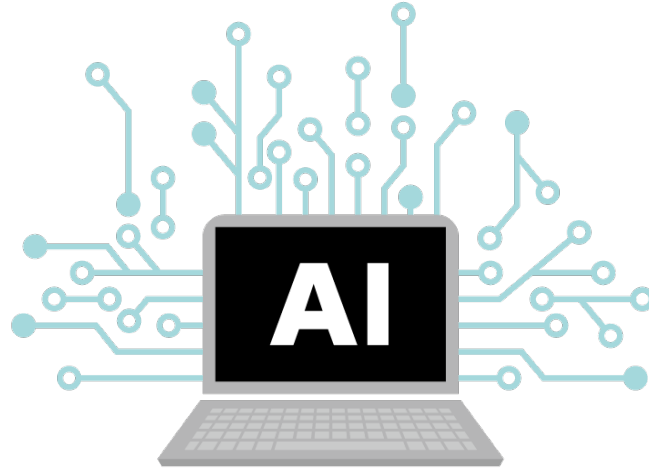
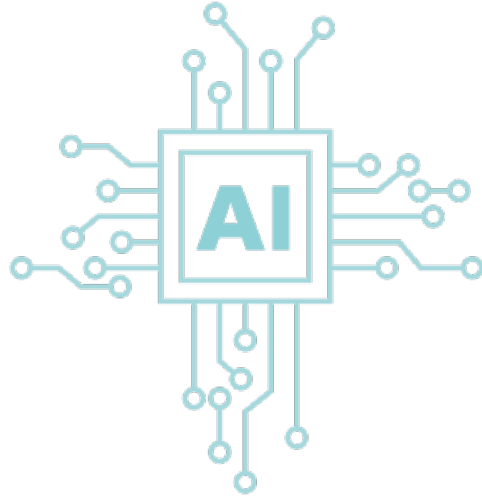
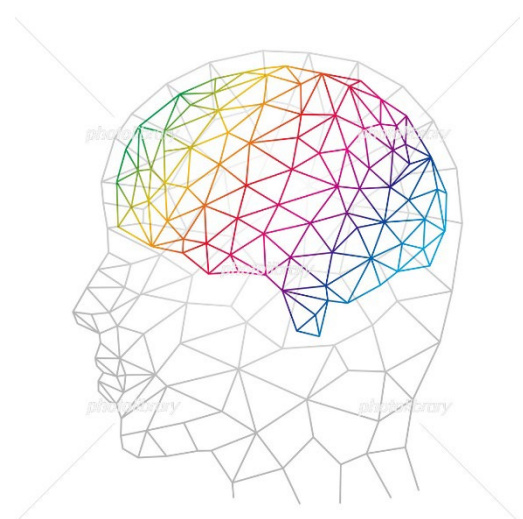
AI...

AIに仕事を奪われるのではないか？



全ての仕事をAIが代替できるわけではありません。

AIによって、人が必要なくなる仕事はありますが、全ての仕事をAIが代替できるわけではありません。AIは、データの収集や分析を得意とし、個別の顧客に合わせた広告設定やマーケティングを提供できます。また、AIは自動化を可能にし、マーケティング活動の効率化や予測能力の向上などが可能となるでしょう。一方で、企画を一から立案したり、詳しくまで人の行動理由を考えたりする力が、AIにはありません。



ただ、AIが人間を上回っている部分が多くあるのは事実なので、今後はWebデザイナーやWebマーケター自身が変化に対応する必要があります。自身の専門性を高めるために、AIや機械学習に関する知識やスキルを習得し、AIが自動化できない創造性や戦略的思考など、人間の持つ強みを生かす考え方が重要です。

何をしたらよいか？

Webマーケターとして知識とスキルを磨いてみましょう

デジタルマーケティングの世界は日々進化しており、新しいツールや戦略が次々と登場しています。そのため、最新のトレンドやスキルを学び続けることで、他のWebマーケターと差をつけることができます。また、データ解析やSEO、SNSマーケティングなど、幅広い分野の知識を持つことで、より効果的なキャンペーンを展開することが可能になります。

■一連のマーケティング業務を経験する

広告のプランニング、ターゲットの設定、キャンペーンの実施、結果の分析など、マーケティングの業務は多岐にわたります。一連の流れを理解し、全体を見ることのできるWebマーケターの市場価値は高いです。また、決まった1つの業務ではなく、幅広く異なる業務を経験することで、自分の得意分野や興味を持つ分野を見つけることができ、キャリアの方向性を明確にする手助けにもなります。

■Webマーケターをマネジメント、ディレクションする立場になる

Webマーケターとしての経験を積むことで、次第にチームのマネジメントやディレクションの役割を担うことが求められることがあります。この立場になると、単に業務をこなすだけでなく、チームの方向性を決めたり、メンバーの育成を行ったりする責任が増えてきます。リーダーシップを発揮し、チーム全体のモチベーションを高めることが求められるため、コミュニケーション能力や人間関係のスキルが不可欠です。また、ビジョンを明確に伝え、チームを一つの方向に導く力も必要とされます。マネジメントやディレクションの役割を果たすことで、Webマーケターとしてのキャリアをさらに高めることができます。

そもそもAIって？

人工知能(AI)には大きく分けて3種類ある

WebマーケティングにおけるAI活用事例を見ていく前に、AIについて最低限押さえておきたい知識について

ルールベース型AI

人間が「こう来たらこう返す」というルール(人間の経験によって得られた知見をもとにつくられたルール)を決めて、それを一つずつコンピューターに教えこんで処理させていくタイプのAI。

例えば、多数の種類動物の画像の中から猫の画像を判別させたい場合、「耳がここについていて、目はここで、口がここについていたら、猫と判断せよ」などと機械に細かくルールを教え込んで判断させる。着目すべき特徴と、それを判断する際のルールを教え込むということ。

機械学習型AI

答えを出すために着目する特徴だけ人間が指定して、その特徴を判断に使う際のルールは機械自身が見つけてくれるタイプのAI。

例えば、「耳と目とひげという特徴に着目せよ」ということだけ機械に指示して多数の写真(ただしそれぞれが猫か否かのタグ付けはされている)を渡せば、その特徴をどのようなルールで使って判断していくかはAIが自動的に学習してくれる。

ディープラーニング型AI

答えを出すために着目する特徴すら機械が抽出してくれるタイプのAI。

例えば、多数の写真(ただしそれぞれが猫か否かのタグ付けはされている)を機械に渡しさえすれば、どの特徴に着目すべきかということから、その特徴をどのようなルールで判断すればいいかということまで判定してくれる。

ではAIの強みは？

AIが得意なこと

AIが得意としていることとしては以下のものが挙げられます。

言語処理

「言語処理」とは、人間が普段使うような言葉を理解させ、処理を行うためのシステムのことです。現在は実践段階ではあるものの、言語処理の技術が進歩すれば人間の代わりにロボットが接客する時代がいずれ訪れるかもしれません。

音声処理

「音声処理」とは、人間が発する声を認識し、会話の内容に対して反応するためのシステムのことを指します。音声での反応だけでなく、テキストに書き出すことも可能です。実際、すでにスマートフォンや家電製品などにはAIの音声認識技術が搭載されています。

単純作業

計算・分析といったコンピュータ上の作業、製造業・物流倉庫における単純作業などは、AIが最も得意とする仕事です。そのため、従来人間が行っていた仕事の多くは、AIの普及によってなくなっていくことが予想できるでしょう。実際、すでにAmazonの物流倉庫においてはロボットが作業を行っています。

画像認識

「画像認識」とは、表示された画像・動画に対して、人・物・言葉などを認識するためのシステムのことです。画像認識の中でも特に進んでいる技術としては、監視カメラなどで使われる顔認証システムが挙げられるでしょう。また、Googleで「ロボット」というキーワードを入れて関連画像を検索するシステムにも、画像認識のシステムが活用されています。

機械制御

「機械制御」とは、データを理解し学習しながら最適な機械制御を行うシステムのことです。機械制御の技術は主に、自動車やロボット産業において活用されています。AIの機械制御なら、従来よりも高いレベルの機械技術が期待できるでしょう。

推論

AIは過去の学習をもとに法則性を見だし、新しいデータの解答を導き出すことも可能です。

ではAIの苦手は？

AIが苦手としていること

AIが苦手としている主な仕事としては絵を描くことや作曲といった「クリエイティブな仕事」が挙げられるでしょう。

クリエイティブな作業はゼロの状態から新しいものを生み出したり、人の気持ちを扱う仕事だからです。そのため、今後の未来においてクリエイティブ業界は将来性が非常に高い業界だと言えます。



まとめ

「クリエイティブカ」と 「マーケティングカ」を武器に!

これからは「クリエイティブカ」×「マーケティングカ」を身につけた人が、制作現場では重宝される人材となる事は間違いありません。

AIが得意なこと苦手なことを理解し、これから様々な業界・産業・アプリケーションにAIが導入されるでしょう。

まずは、これから取り入れられるであろうAIのアイテムを使ってみることに始めてみてください。

